



鋪道の拾ひ物

ペーブメントは雨あがりにしめつて居るがまだ旭の光は射して居ない、往來するものは纔かに新聞配達と牛乳屋である、いそぐともなき朝の散歩の爪先にノートブックが一冊、拾ひあげて何人のものかと詮議したが何人のホームも記してない、唯其第一頁に「樞密院議長は第一が伊藤博文で伊藤は前後三回議長となつた次で山縣有朋も亦三回、大木喬任が二回、黒田清隆、西園寺公望が各一回、清浦奎吾、濱尾新、穗積陳重、倉富勇三郎と云ふ順で本年五月三日に一本喜徳郎男が倉富の後任になつた、樞密院は憲法第四章第五十六條に依り、天皇の諮詢

に應へ重要な國務を審議するの職能を有するの外内閣の施政に干渉し又は政治機構に容喙することは嚴禁である、然るを山縣議長とか伊東已代治とかは屢々陰謀を逞うしたものだ、之れにこりごりしたのは西園寺公次ろう、一本新樞相の任官には現官相も餘程骨を折つたことであらうと思はるゝが平沼副議長の昇格を見ずして腹のドン底から謹直な而かも憲法學者の中でも頑迷な連中てなく去りとして最新な思想家でもない尙又政友會には共鳴點が乏しいが超政黨者であるから國政に對しては公平な判断と批評を加ふることは勿論であると見らるゝ一本男である。吾等國民は新樞相に期待する所が多である、新樞相永く健在であれと祈

る」と記されてある。
 數頁の後は斯う書いてあつた「偉人武藤山治逝いて五旬聖戰勝利を得たり」との特號活字の見出しで帝人株問題での黒田大藏次官以下の瀆職犯事件、臺灣重役の背任犯事件を報道しておる時事新報としてはさもありなん、斯くも思はん、何らかの噂はあるか武藤氏は随分思ひ切つて番町會をつばぬいたものだ大藏、臺灣に關係ある刑事問題を檢察官達に重要視せしめたのは矢張武藤氏のメスの力であると謂はなけりやならん、何んと云ふても信用を基礎として居る金融機關の中樞が梅毒性疾患に犯されては我國の威信に影響する所が少なくない、高橋老藏相に財政處理の熟達した能力

注 本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の投稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯手に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

がある。信じて現内閣の使命と自任して居る綱紀肅正が三位一體の一つが背負つて居る中央政府の一部の首脳部に裏切られては三位一體はバラ／＼にせられたことだ、東朝子ぢやないがあわてるには及ばないがやめるには及ばないといふ事にはならぬのである、一國の政治機關が政治上の問題で交迭せず非政治事件で倒壊すると云ふは變哲な事ぢやが矢張仕方もない事ぢや後任内閣が何人の手で組織されやうが金看板に墨を塗られちや店仕舞にするのが當然ぢや夫れが國民指導上に益ある事ぢや。今は時局が時局ぢやによつて纔かに一省の事件で閣臣が進退を決するには及ばぬ、とおつしやる方もあるが些少な事件では上司に監督不行届の責任を負はせて官紀嚴肅を旨とする内閣でこんな大事件では責任可分とか不可分とかを論じて中央行政廳長官たる大臣が其部下の不法行為に對して監督の責任を避け得べきものだとするのは其處に大なる矛盾がある、自己撞着がある。非常時局の

唱名ももう澤山だ、人口をたつた六百五十萬の埃國首相の經綸と氣魄にはサスガのナチス運動も見事阻止せられたことぢや我帝國でも國民が要求するのは經綸と氣魄に滿ちた熱烈な政治家だ三位一體老佛やロボット大臣ぢやない。と(五、二〇、公民生)

路頭の聲

私は安達さんを餘り攻撃する氣分にはなれない、昔は悪人であつたかも知れないが今は八聖殿裡に聖者振を示しておる此安達さんの行動は文化式政治運動の否定であるからそうした安達さんを攻撃したくないと室伏高信が皮肉言を發言したとの人の噂である、眞偽は知る由がないが八聖人や五賢人や七賢人を祭つた所で祭る人物が直に聖賢者に變化するとは思はれない、古聖賢の木像や畫像に親しむが故に其人物にコンボルションが發生して忽ち聖賢と化し得るならば僧侶は佛心をもち神官は神に化すべきの理である、世間はそう問屋でおるさな

ものである。室伏の言將に皮肉である、さもあらばあれ、死せる武藤生ける黒田を苦しめることとなつた爲、内閣の三大老も互ににぎりしめておる手を放なしそうになつた政權は何處に飛び行くか分らないが、ともかく雲脚は動き出した、政權は搖き出した安達さんもジツとして八聖殿に賢者振をしてすまし込んで居られないであらう、茲暫らく八聖殿に黃塵積まざれば幸であるが初夏は忙しい、フアツシヨのおみこしかつぐよしもなしではなからうか。(采鳥生)

東京市長の愚劇か

A 新聞に市長の愚劇と題して東京市營電車事業に就て婦人連を招待して泣落し劇の一幕を演じたが夫れが交通上何の効果もなかつたのか、雨もりの電車、配車の不整、車掌の不親切など不愉快極まる事である、市長さんや市長の奥さんは電車に乗つた事がありませうかと「おかしくつて」の婦人招待會を市長の愚劇なりと斷じて居る投書が

あつた。投書家は認識不足であると申したい、一體服部時計店の家庭に蝶よ花よとはぐくまれ出づるに自動車がある、呼ぶに呼鈴がある、寝るに寝臺がある、聞くにラヂオがある、彈ずるにピアノがある、使ふに召仕の男女がある、目覺むるに目ざまし時計がある、食ふには御身分のお口がある所謂深窓の人となられた方で無産者達の利用機關たる電車などに乗られたかと尋ねることがあり得べからざることである、婦人招待會は招かれた婦人も招きたる主人公も大衆向の荷物電車には御用のなき方であつて御話は電車は市營ですつてネ、レールの上を走つておるですつてネ、電車賃が朝の割引位なら女中の走り位に經濟ですわネ、アラバスも市營ですつて妾今日始めて乗りましたが大ツクションがかたくて御尻が痛みました、よくあんなのに御乗りになるわネ、車掌の娘つたら生意氣ですわ妾の指輪から目をはなさないですもの、マアあれも人の子ですよ、紺サーヂの古服、スカートのお可

笑しな型を着て男書生の着る様なメリヤスの木綿シャツが見えて居るなど氣の毒に思はれないですかネ、生活の爲めの第一線に活躍して居る勇敢には青狐の襟巻夫人でないけれども同情しますわネ、等々の會話を交換したのが「おかしくつて」の會であつたであらう。其處に如何なる六百五十萬圓赤字填補の計畫案が相談され得るであらうか。電氣局の仕事は知つて知らないのが市長の職務である「どうもあり難う」との一言を忘れないで降車の際に挨拶せねばならぬこと、田舎者には親切に途を教へて乗るべき電車バスを指定してやらねばならぬと訓示せられておる案内ガールの妙策、なるべく美觀を採用して電車の補助車掌とすること、「此處は警察前ですかと客が尋ねても規定の通、豊川稻荷前です」と答ふるものと確信をもたしむること、サービス改善等の奇策妙案は最近歐米で學ばれた山下局長の腦力を發揮されたるもので市長の愚劇から出來たものではない、サービスの改善で

赤字填補を成し得ると思はるゝかとの反問は賢明な市長、埼玉縣神奈川縣の方面に非常な區域の擴張があつたに拘はらず月島の尖端が市役所の建築場所であると主唱せらるゝ市長も共鳴さるゝ所である、電車は薩摩の守の連中が評議して電車賃が安いから根本的改良などは不經濟至極だと言はるゝのも無理ならぬことであらう。市電改良策は先づ市區會議員に無料乗車券を交付せざることから始めねばならぬ上原生よ御解りか、臺灣でも肉體美人をバス車掌に採用して乗車誘致の策を識ずることとなつたことであるがサスガに帝都である此點丈は臺灣よりは御先きであつた。(下原生)

變れば變る世の中

齋藤内閣の三大柱の一で非常の時局と云ふ盾を以て政權を頑強に死守しておる山本内務大臣はサスガに百練の士で老ゆれども其齡を忘れたかのわかき氣分をもたれて國務に従はれて居らるゝ、此老内相の權威と

信用とは過日の地方長官會議に於ての府縣知事達の態度でも知られるのであるが、斯る人物もその昔は人にも知られなかつたこともある一のエピソードを遺されて居るとの事である、夫れは有名な駒澤のゴルフリンク創設の際、時の日本銀行總裁であつた山本達雄の名前を以て東京ゴルフクラブからゴルフ場の敷地として一坪五厘で其借入を地主秋山紋兵衛氏に申込んだものであつた、處が日銀總裁であると云ふことも相當の金持ちであると云ふことも又大ブルジョアであると云ふことも知らなかつた紋兵衛地主は中々申込み丈でオイソレと承諾しない、太陽の光と熱とでやかれ土の香と色とで染められた織よりもふけたコチ／＼の親爺さんは腰に握り飯をつけてバスも圓タクも電車もない駒澤からテク／＼と東京に出て來て借地申込人山本男の信用と財産との調査をやつたとの事である、時代と云ふものは奇妙なものである、今を時めく山本内相閣下今昔の感や如何。(サクナ新町住人)

政界革進の途

「革命的手段によらずして合法的に政界の革新を遂げんとするならば先づ政治家に衣食の恒産有つて次に其の政治家が相當氣永く辛棒強く無智な國民を教育して本當に立憲政治の意義を徹底せしむるより他に別に良法はない」とは老政治家尾崎行雄氏の言である、言や寔に良しサスガ數十年間政治に活き政治に動き政治に在つた學堂老翁の言にふさわしき感がある、だが尾崎翁の言ふ如き理合は今更新しきものにあらで少しく志ある者のよく公言する所である、然れど言は易く實行の難きは敢て謂ふを俟たない、恒産ある者にして恒心あり、恒心ある者こそ政治家としての一資格を有するものなるは随分往時より言ひ傳へらるゝ所である、政治家にして黃白の爲めに容易に節を屈するものあるは屢々實見する所である、否時に恒産あるも尙且つ黃金の爲めに主張を變ずる者もあるものもある、如何に慷慨悲

憤するも黃金に左右せらるゝ政治家の少からざるは吾れ人皆の認むる所である、獨り政治家のみでなく武臣文臣にして愛錢惜命の徒あるは疑ふの餘地なき事實である、今日尾崎翁の所謂無智な國民を教育し得るの資格者果して何處にか在る、徒らに捨身愛國を唱ふる士あるも多くは智なく徳なく思慮見識に乏しきものである。赤心邦國を憂ふと豪語するも社會は政治乃至經濟の原理を認識せずと論ずる者も、ハウスキーパーの名の許に不倫邪淫の途を歩むものが少くない、是等は正に砂丘上に家を建つるものである、衆心漸く離散して國民に自棄倦怠の色あるを見る、地の鹽となり世の燼となる力あるものを何地に求め來らんか。

(五、二四、三猿生)

交通警察官の微苦笑

「車道の横斷は横斷歩道を歩むべし」「交通には信號を守るべし」と禁札が所々の交通に立てられてあるから車屋も歩行者も

此の禁札には従はねばならぬ。文武百官憲兵巡查庶民に至るまで見張査公に心配をかけるに努むることが公徳を重んずる人物であり、社會秩序尊重者である。ナニガ交通巡查だ、高位高勳者の吾々に何の威力があるなどと思ふものは如何に日本精神を主張しても我國民の優越性を自賛しても、

武士道を鼓吹しても無駄である。四谷の鬼巡查は昨年暮に笈の爲めに職務執行を防害せられたか日々の訓練は愈々頭のサエを増加したものと見へ、過日も或る將校軍服を着けた一人物が故意か無意か横斷歩道を無視した。すると鬼巡查は頻りに注意を加へたが其人物は依然逆行もしない、タマリかねた巡查は信號臺を下りてツカ／＼と其人物に近づき其人の體面を尊重してのことか耳に口よせ何言かをさ／＼やいた處、其の軍人らしい人物は軽くうなづきながら平然と歩を進めて毫も己が進路を轉向せず遂に向側に移つた。査公は力及ばずと思ふたか、微笑しながら故の臺に上り注意深く左右

に眼を回轉しながら信號器をあやつつて交代時間まで忠實に職務を執つた。鬼巡查の胸中を察しつゝ斯く日記をものした。(一歩行者)

街頭の危険

ソラ飛行機が一臺二臺三臺だ。イヤ五臺だ街路に伴ふ幼き者達が空を見上げての叫び聲に我を忘れて天の一方をながめながら歩むと其處には自轉車が横たへてある、ゴミ箱がある、物賣臺がある、電柱がある、レコード立聞のマチのボーイの群が居るので不思想もアツと驚くこと屢々で、甚だ危険を感じるが夫れが、また、空中飛揚の輕球廣告が澄み渡つた空に活動映畫やレヴューの演劇廣告の尾を曳いてあちこちに見らるゝ空みて通るを餘儀なくせられて危険の度が増加して來た。之れが廣告の空中進出で文化生活はますます上向いて來たが、此頃また大空に描く煙幕の廣告、其の廣告が活動するのを見るのが更らに人目を引き付けるであらう。夫れに其煙幕の文字は飛行機の横轉逆轉宙返りなどの曲藝で抽かるるので一段と小兒は勿論大人まで兩眼は天と並行

に置かるることとなるであらう、ナンと危険のます空の廣告よ。(水川生)

伊勢大橋行進曲 (祝橋竣工歌)

- 一、そのかみ遠き我が伊勢路國をしづめて天てらす神のみいづともろともに仰げ日の本 日のみ旗
 - 二、富士の高嶺の高きこと東洋一を誇りつゝつなぐや伊勢の大神橋七里の渡しいまいづこ
 - 三、東は千代田西は伊勢一號路線の國道に長くはるけく虹のごとつゞきて橋はかゝりたり
 - 四、右に左にたよりよく舟も車にかはりたり御代も人もる共に御代の榮を誇ひつゝ
 - 五、司、司もつらなりて今日ぞうれしき初渡り其のめでたきは木曾長良揖斐の流れとつきざらむ
 - 六、祝へ國民神なる伊勢の宮居をおろがみて大海原に天地に
- 聲はひゞきてどよむまで